

本号の特集は「頸椎神経根症再考」である。本疾患は、日常診療において頻繁に遭遇する一方で、診断や治療において依然として議論が多い領域である。本特集では、頸椎神経根症の病態、診断、保存療法、手術療法について多角的な視点から詳細に論じられており、臨床医にとって大変示唆に富む内容となっている。

頸椎神経根症は、高齢化や生活様式の変化に伴い、今後さらに増加が予測される疾患である。椎間板変性や骨棘形成などの退行性病変が主な原因とされるが、その発症メカニズムと適切な治療法の選択は、症例ごとに異なる複雑さを伴う。本特集では、疫学的背景から神経学的診断、画像診断の活用、保存療法と手術療法の適応まで、各項が有機的に連携し、頸椎神経根症に関する包括的な知識を提供している。

特に印象深いのは、治療法に関する議論である。保存療法のエビデンスに基づくアプローチでは、非手術的治療が多くの症例で良好な結果をもたらすことが示されつつ、難治性症例に対しては手術の必要性が強調されている。また、手術療法に関する各項では、前方アプローチと後方アプローチの長所と短所、さらには人工椎間板置換術の可能性について、臨床現場の実情を踏まえた深い考察が展開されている。前方アプローチによる確実な神経根除圧や、後方アプローチによる低侵襲性のメリットなど、各術式の適応と課題が整理されており、具体的な治療戦略を考慮するうえで、大変参考になるものである。

また、神経学的診断や画像診断の重要性については、特に臨床医にとって示唆に富む内容である。神経診察による責任高位の特定や、MRI、CTなどの画像所見との整合性を重視した診断プロセスは、治療成績を左右するきわめて重要な要素である。一方で、無症候性の画像所見が診断の混乱を招く可能性についての指摘は、診療における慎重さの必要性を再認識させられる。放射線科医からの意見として、矢状断、横断像を中心としたMRIの撮像ルーチンは30年以上変わっておらず、以前より比較的短時間で3次元撮像が可能となった現状からは、まさに再考する必要があると思っている。

頸椎神経根症は、保存療法と手術療法の選択が症例ごとに異なり、患者の生活の質や長期的な予後を考慮した個別化医療が求められる分野である。エビデンスが十分でない部分がまだまだあり、人工知能ではなく、個々の医療者の経験と判断が引き続き重要な役割を果たすことをあらためて確認した。

(堀 正明)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

松山幸弘 (編集委員長)
亀山 隆 黒川勝己 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中西一義 中村雅也 西田康太郎
原 政人 飛驒一利 堀 正明
安原隆雄

Vol. 37 No. 11
(2024 年 12 月 25 日 発行)

毎月 1 回 25 日 発行

1 部 定価 (本体 2,500 円 + 税)
(配送料別)

年 ぎ め 予 約 購 読 料 33,300 円 + 税
送 料 弊 社 負 担

発 行 / 株式会社 三輪書店
代 表 者 青 山 智

〒 113-0033

東 京 都 文 京 区 本 郷 6-17-9

本 郷 綱 ビ ル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 西本・山岸)

印 刷 所 / 三 報 社 印 刷 株 式 有 限 公 司

TEL 03-3637-0005

告 白 申 込 所 /

(株) 文 栄 社

TEL 03-3814-8541

(株) ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2024,
Printed in Japan

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。